

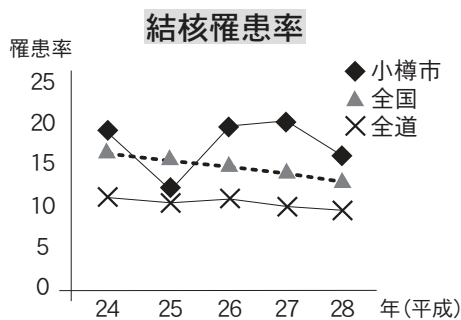
結核 に「注意」を！

結核は現在でも多くの方がかかる病気であり、昨年には市内の医療機関で集団感染が発生するなど、重大な感染症です。そこで、結核から身を守るための基礎知識についてお知らせします。

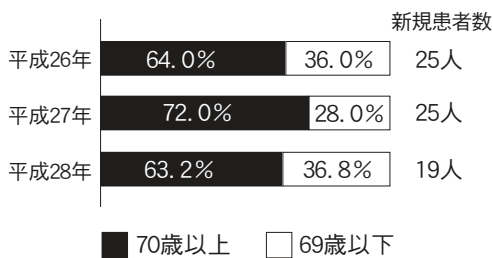


70歳以上に多い結核

結核は昔の病気と思われがちですが、平成28年に日本で結核を発病した患者は全国で約1万8000人、結核が原因で亡くなった方は約1900人と、今でもなお重大な感



市内の新規患者数と年齢構成



染症といえます。小樽市では、毎年20〜25の方が新たに結核を発病しており、平成28年の罹患率（人口10万人あたりの患者数）は、15・7で、全国平均の13・9よりも高い値となっています。（左のグラフを参照）

結核患者の年齢構成は、70歳以上の高齢者が6割を占めています。これは、結核が蔓延していた時代に感染し、免疫力の低下に伴い発病する方が多いためと考えられます。高齢の方ほど注意が必要です。20〜50代の働き盛りの年齢でも発病しています。

結核の症状

結核は「空気感染」する病気です。結核菌がせきやくしゃみと一緒に空気中に飛び散り、その漂った菌を周りの人が吸い込むことで感染します。

ただし、感染しても必ずしも発病するわけではなく、発病には感染した際の菌の量や強さ、感染した人の免疫の状況が影響します。免疫力が強いと結核菌が抑え込まれて休眠状態となり、数年〜数十年後に発病する方もいます。そのため、すでに結核菌に感染していた方が、高齢になって免疫が低下し、発病することが多くなっています。

結核の初期症状は、風邪の症状とよく似ています。ただし、高齢者の場合は、呼吸器症状（せき・たん）が出ない場合が多く、全身症状（微熱、体がだるい、胸痛、体重減少、食欲低下など）がある場合が多いことが特徴です。2週間以上症状が続くときは、すぐに医療機関を受診しましょう。また、せきやたんが出る場合は、マスクをして周囲の人にうつさないよう、せきエチケットを心掛けましょう。

現在、結核は医師の指示どおり6〜9カ月間程度薬を飲めば治る病気です。結核を完治させるためには、毎日確実に服薬することが大切です。症状が消えたからといって服薬をやめてしまうと、再発する可能性が高くなってしまいます。また、結核菌が薬に対して耐性を持ち、治りづらくなることもあります。

結核から身を守る3原則

- 年1回は胸部レントゲン検査を受けましょう
- 症状が出たらすぐ受診しましょう
- 日頃から免疫力を高めておきましょう



1年に1回は胸部レントゲン検査を受けましょう

自分自身の健康のためだけでなく、家族や友人など周りの方への感染を防ぐためにも、結核は早期発見が重要です。

小樽市では職場などで健診を受けられない65歳以上の方を対象に、結核・肺がん検診（胸部レントゲン検査）を行っています（本誌16ページに案内を掲載しています）。料金は無料ですので、ぜひ受診しましょう。

◆お問い合わせは、保健所健康増進課 ☎3110、FAX 1469 へどうぞ。